

JLP 改革—新カリキュラム 2013 年秋から実施—

田中 和美

ICU は開学当初の 1953 年 4 月に日本の大学で初めて単位を認定する日本語教育を始めました。以来 60 年にわたり日本語教育課程 (Japanese Language Programs ; 以下 JLP) では日本語教育を提供してきました。自他共に認める日本語教育のバイオニアがあります。その間、何度かカリキュラム改編がありました。JLP の歴史、カリキュラム変遷の詳細は 2003 年の本紀要でご覧いただけますので、本稿では 2013 年秋のカリキュラム改革に焦点を絞ってご説明します。今回の改革は 2000 年に大きな改革をして以来で、2008 年 ICU の教学改革、2012 年英語教育プログラム改革に続く一連のものと言えます。

I. JLP の理念、目標

近年、学生の大衆化、多様化が進み、さらに大学生活の目的や大学教育の意義などが著しく変化していることは多くが認めるところです。JLP 内部での話し合いの中で、ICU、そして JLP はこのような時代に十分対応できているのだろうかという懸念が生じ始めていました。また、最近の学生は、大学生としてのレディネス、アカデミックスキル、根気がないと感じている JLP 教員が多数いました。一方で、グローバル化の中での日本語を習得することの意義、大学での日本語教育そのもののあり方を JLP で捉えなおす必要があるのではなからうかという意見も生まれてきました。

このような状況下、JLP ではどのような学生を養成することが望まれるのだろうか、日本語ができるとは何なのかという根本的な課題と取り組むところから始めました。内部での話し合いの結果、次のような理念、目標を掲げることとしました。

JLP の理念

JLP は、多様な文化や価値観の中で相対的な視点を持ち、社会に貢献できる人の育成を目指す。

JLP の言語教育

JLP では、次の 2 点を目標として言語教育を行う。

- ①大学内外における学術的また社会的活動において、他者との関わりを持ちながら大学生としての生活を送るために必要な日本語の力の養成。
- ②大学卒業・修了後も日本内外で社会の一員として能力を発揮し、社会に貢献するための土台となる日本語の力の養成。

II. カリキュラ改革の方針

近年の ICU 生並びに JLP 履修生の質の変化、社会一般の機運、さらに ICU 全体の教学改革を受けて様々な問題が JLP でも顕在化してきました。この節では、カリキュラム改革の方向性を示唆することとなった従来の JLP カリキュラムにおいて見られた問題を

整理します。その点を踏まえ、カリキュラム改革をする際にとった方針を示します。

1. 従来の JLP カリキュラムにおいて見られた問題

- 1) 語学履修要件を満たすにあたり、つまり学生が少なくなかったことがまず挙げられます。特に日本語をゼロから ICU で始める本科生は卒業するために JLP から 45 単位必要で、比重も大きく、授業時間も非常に多い状況でした。成績が芳しくなく、コースをリピートしたりと苦労し、4 年生になっても日本語を履修している学生がいました。これでは目的に適っていません。さらに、JLP では良い成績が取れず、GPA が下がり、将来への懸念を生じさせることにもなり、やる気をなくす学生が少なくありませんでした。
- 2) 本学の目標として目指してきた「バイリンガルになる」「大学で日本語で行われる講義を履修する」という日本語力は、過去はともかくとして現在では 1 年余りの日本語学習でだれもが到達できるものではないと思われました。到達目標と履修時間とが現実的ではなくなっていました。
- 3) JLP のコースと本学の他コースがかみ合わず、アカデミックプランニングができないことが浮き上がりました。専修するメジャーの要求する科目を履修する時間がないという現実がある一方、メジャーが要求する日本語開講の科目を履修できる日本語力がないため、メジャーそのものを断念せざるを得ない学生もいました。
- 4) 特に Intensive Program では、授業時間数が多く、教師、学生とも疲弊してしまっている状況が見られました。長時間の教授によっての効果は必ずしも見られるとは言えません。一方、他の科目を履修することができず、9 月入学生は大学生としての自覚を持つことなく 1 年目を過ごしている様子が一部の学生には見られました。
- 5) 日本語を第 1 言語／継承語としている学生（以下帰国生）の中での日本語力の差が大きく、外国人学生と一緒に日本語コースを履修する学生も少なからずいました。帰国生と外国人学生が混在するクラスでは、双方にとってのデメリットが報告されました。外国人学生は、話す聞くに問題がない帰国生と同じ評価をされることに公正さを欠いていると感じているようでした。また、帰国生は、読み書きに関して学ぶことはあるものの単純な内容だと受け止め、やる気を失ったり片手間でも十分であろうと思ったりし、結果的には日本語力が伸びないままとなっているケースが多々ありました。
- 6) JLP が履修免除となる学生が多少いましたが、この学生たちの中には入学後、他の新入生が JLP のクラスで学んでいるのに対し、どこにも属していないという不安を感じる者もいました。

上述の問題点をまとめてみますと、大きく 3 点となると思います。

- 1) 従来の帰国生向けの日本語特別教育 Special Japanese Program（通称スベジャパ）のスピードと内容、時間数ではついていけない第 1 言語／継承語系の学生が増えてきたため、外国人学生向けの一般日本語プログラムのコースに入れるケースが近年増加してきました。その結果、様々な背景の学生が日本語力ということだけで、同一のコースに入っていることによるマイナスの影響が見られるようになりました。特に外国人

学生と帰国生はニーズやレディネスが異なり、同じカリキュラムでは、それぞれの特性を活かし、伸ばしていると言えないと考えました。

- 2) JLP のコースを履修すると一般教育科目や基礎科目が履修できないという現状があったことです。単位数、授業時間数や時間割の問題が生じ、JLP コースだけを履修している学生も少なくありませんでした。せっかく学部の一部となっている JLP があたたかも留学生別科、語学学校のように大学そのものと乖離したものとなっていました。
- 3) 語学履修要件を満たすのに苦しんでいる学生が少なくなかったことです。4 年生になっても JLP のコースを取っている学生、JLP での成績が悪かったため GPA が下がってしまったと嘆いている語学が不得手な学生がいました。

2. カリキュラム改革の 3 本の柱

上述した現状を打破するためにカリキュラム改革をすることになり、学内で他部署の教員や職員も含む JLP 改革委員会が 2011 年 5 月に正式に発足されました。2013 年 9 月開始を目指し、JLP 内部で会議、リトリートを利用し、多くの議論を重ね、作業を進めていきました。まず、改革に当たり次の 3 本の柱を基盤とすることに合意しました。

- ① 帰国生の中に、Special Japanese プログラムに入れるか、外国人学生向けの一般日本語プログラムのコースに入れたほうが良いのかどうかの判断に困る状況が近年続いていました。このような問題に対応するには抜本的改革が必要だという考えから、昨今 ICU に入学する第 1 言語／継承語系の学生の日本語力でも学べる Special Japanese プログラムとして、内容、時間数をはじめカリキュラムを改革することにしました。

その上で、ニーズの異なる学生が混在しないように、〈外国語としての日本語〉と〈第 1 言語／継承語としての日本語〉の二本立ての明確なプログラムを作り、9 月生はどちらか一つの道を進みます。入学時にどちらかに振り分け、語学履修要件を定めます。基本的に、両親もしくは片親が日本人、また家庭で日本語を用いていた日系の学生は〈第 1 言語／継承語としての日本語〉プログラムを履修します。

- ② ICU 生としての自覚を持ち、より教養学部の一員として幅広い交流ができ、リベラルアーツの学びができるように、〈外国語としての日本語〉プログラムでは、コマ数、単位数を減らします。それにより一般教育科目、基礎科目などが履修できるようになり、卒業までの履修過程を考える Academic Planning もやりやすくなるのではないかと考えました。一方、9 月入学生の 8～9 割を占めるいわゆる帰国生の 4 年本科生が進む〈第 1 言語／継承語としての日本語〉プログラムでは初年次教育を行う目的で必須科目を設け、教養学部の一員としての自覚を育成し、大学生としてのスキルを学びます。
- ③ 学生の負担を軽減するため、〈外国語としての日本語〉プログラムに進む学生の語学履修要件としての到達目標を J7 コースとしました。これにより従来の最大 45 単位から 35 単位の履修要件となりました。やる気がある、また言語の適正がある学生は、さらに上級コースである J8、J9 コースを選択することができます。

III. 新カリキュラムの内容

1. 概要

改革のための3本の柱を具現化し、図1のようなプログラムを組み立てました。〈外国語としての日本語〉プログラムの内容は、従来と同じ水準を維持することとし、J1～J3は引き続き『ICUの日本語』の教科書を使用することとしました。J4～J6の中級レベルは、JLP自主教材を作成し、2012年度より試用しています。一方、〈第1言語／継承語としての日本語〉プログラムは、大幅な改革であり、新たなカリキュラム、教材を必要としました。なお、従来のカリキュラムとの比較は参考資料の図2、図3をご覧ください。

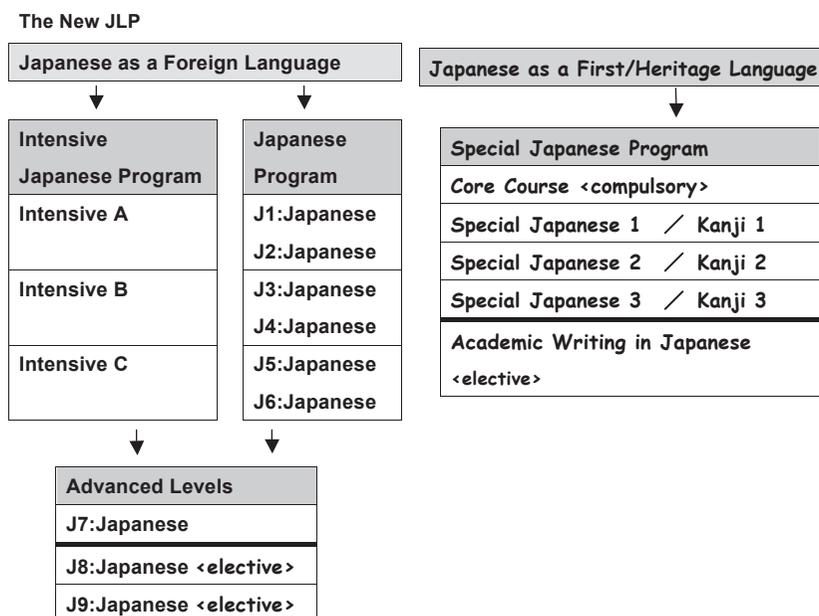


図1：新カリキュラム JLP 枠組み

2. 今改革の利点として想定していること

背景、目的が異なり、多様化している学習者が混在していることの弊害を減らし、学習者のニーズに合った、より効果的な教育を提供することができるようになることを目指しています。

1) 〈外国語としての日本語〉プログラム

- a. コマ数、単位数の減少により、日本語以外の科目の履修が可能になります。それにより、卒業までのアカデミックプランニングが容易になり、大学生としての自覚も促進できるでしょう。
- b. コマ数の減少により、学生は、学習項目の消化、吸収の時間が得られます。ICU生として言語環境を最大限に生かし、より自律的な学習を促進でき、学生が自己管理

する学習者中心のカリキュラムとなります。

- c. 初級レベルから上級レベルまで、より円滑な連携を図れるようになります。上級レベルを技能別コース編成ではなく、統合した能力育成を目指すコースにすることにより確実な力をつけることができます。
- 2) 〈第1言語／継承語としての日本語〉
 - a. 全員が秋学期に基礎科目を履修することにより、初年次教育の役割を果たし、一体感、帰属感を育むことを目指します。日本語の基礎の確立ばかりでなく、日本での大学生活への適応過程の一環となるものと思います。
 - b. 漢字学習を独立コースとし、学生はそれぞれのレベルに合わせて進みます。
 - c. 選択科目ではありますが、『大学生のための文章作成』コース、および／または、ELA (English for Liberal Arts; 英語教育プログラム) の“College Composition for September Students”を履修することにより、一層高度の学術的スキルを学ぶことができます。

3. 時間割

時間割枠設定に関しては、大学内の他科目を履修できるという目的が達成できるように、調整に時間をかけました。まず、履修科目一覧から英語開講科目を洗い出し、傾向を把握し、学部長やカリキュラム担当副学部長、Academic Planning Center と話し合いなどをし、JLP の時間割を大学全体の時間割枠の中に合わせたほうが効率的であることを確認しました。学内の会議体そして JLP 改革委員会の討議を経て、参考資料図 4 のような時間割としました。基本的にどの JLP コースを履修しても、大学の時間枠のうち最低 2 つを選択できるようになっています。さらに、「月・木スーパー 4 限」、「水・金スーパー 4 限」、「火 3 限+木 2, 3 限」の枠には JLP 履修生のために多くの英語で行われる講義科目を開講するよう請願しました。

4. プレースメントテスト

従来どおり、〈外国語としての日本語〉プログラムには General Placement Test、〈第1言語／継承語としての日本語〉プログラムには Special Japanese Placement Test を実施しました。どちらのテストを受ければいいのか迷う学生、受け始めて途中でもう一方のテストを受けたいという学生等で、今まで混乱が多くありました。例えば 2010 年のプレースメントテストでは 21 名が翌日にまたがって両方の試験を受けました。このような事態をできるだけ少なくするため、応募書類の第1言語及び家庭での言語に関するアンケートから第1言語／継承語系の学生を抽出し、判断がつかない学生に関しては事前に簡単に面接し、Special Placement Test を受けるかどうか指示しました。今年は Special Placement Test の結果、General Placement Test を受けることになった学生は 3 名で、それらの学生は〈外国語としての日本語〉プログラムに配置されました。

テスト内容に関しては、General Placement Test は今までどおり「総合 Comprehensive」[読解、漢字、語彙 Reading Writing Vocabulary] の 2 種はマークシート方式でした。さらに、今までは上級レベルという判定が出た学生に対してのみ課していた「作文」を全

員に課しました。また、従来通り必要な場合には面接をすることにしました。Special Placement Test のほうは、従来のマークシート方式の「読解、漢字、語彙」と「論述」に新たに「Cloze Test」を加え、さらに「漢字の書き」を大幅に増やしました。その結果、学生は Special Japanese 1, 2, 3 あるいは免除、そして Special Kanji 1, 2, 3 あるいは免除のいずれかに配置されました。Special Japanese Core Course は必須科目ですので、全員が履修します。

所要時間は、双方のテストとも最大 2 時間半です。

5. コースの内容

今回大きな変更があったのは〈第 1 言語／継承語としての日本語〉プログラム、いわゆる Special Japanese プログラムですので、その内容の概略を説明したいと思います。新旧対照表は巻末資料の図 3 をご覧ください。なお、選択科目である『大学生のための文章作成』は 2014 年春学期に初めて開講されますので、今回は取り上げません。

1) Special Japanese Core Course 特別日本語基礎科目

Special Japanese Core Course 基礎科目は、9 月入学の第 1 言語／継承語系の本科生全員に必修とし、初年次教育の目的を持って制定され、目的は「日本文化や習慣を理解し、日本語を第 1 言語／継承語として運用するために必要な基本的知識とスキルを学ぶ」ことです。特別日本語や特別日本語漢字のクラスを免除された学生でも基礎科目はとらなければなりません。授業内容としては、最初の数回は全体で基本的な事項の講義（原稿用紙の書き方、メールの書き方、情報収集検索方法、日本語の表記についてなど）で、その後は 15 名前後のセクションに分かれて、日本についての基礎的な知識を学生が分担して発表しました。情報を的確に収集すること、きちんと人前で話し、知識を伝えること、そして聞いたことをノートに取り、学ぶことを主眼としました。

2) Special Japanese 1, 2, 3 特別日本語 1, 2, 3

旧カリキュラムの Special Japanese A, B, C を継ぐもので、読解力、文章表現力、口頭表現力を育成するものです。従来よりもレベルを全体的に下げ、Special Japanese 1 では授業時間数を週 5 コマとし、それに加え個別指導 1 コマを設定し、日本語力の弱い学生にも対処できるようにしました。

3) Special Japanese Kanji 1, 2, 3 特別日本語漢字 1, 2, 3

新たに漢字だけのクラスを設けました。学習指導要領、使用頻度、漢字検定などの漢字リストを参考に JLP で協議し、Kanji 1 は 600 字、Kanji 2 は 500 字、Kanji 3 は 500 字、総数 1600 字を選択し、25 字を 1 課として教材を作成しました。授業は週 1 コマで、授業前半は漢字の字形や語源などの講義、また学生による四字熟語やことわざの発表に使いました。授業後半は、漢字クイズの時間に充てました。学生は課ごとに漢字を覚えてきて、課ごとのクイズを受け、その場で自分で採点をします。自己採点することで、モニターする力も養成するのが意図です。合格点に達していれば、次の課に進めます。各自が自分のペースで進度を決められますが、期末試験ではそのコースで学ぶすべての漢字が出題対象となります。

IV. 秋学期に実施してみたの振り返り及び今後への課題

1. 運営面から

- 1) 非常勤講師の確保が課題となりました。時間割の変更により、従来の非常勤講師の出講日では、不都合があることが判明しました。木曜日には、J4、J5、J6 の 3 コースしかありませんし、Intensive の金曜日の午後、火曜日の 5 限などは専任が入るしかありません。3 コマ続きの曜日が多いため、1 日だけの出講も可能とし、1 日 1 コマだけの出講もあり得ると考え直しています。
- 2) 時間割の重なり事前に十分調整したにも関わらず、体育必須科目と ELA の “College Composition” とで重なりがあり、来年度のために時間割変更を申請しました。

2. 教育面から

1) 〈外国語としての日本語教育〉プログラム

a. 授業時間数の減少

旧カリキュラムと同様の内容を少ないコマ数で消化することが困難であるとの指摘があります。中級レベルの J4, J5, J6 については、新たな教材を開発作成し、昨年度試用したので、時間数減に対応できました。初級レベルの J1, J2, J3 は従来の教科書をそのまま使用したため、無理が生じたと言えます。初級レベルの教材をどうするか、早急な議論が必要であることは否めません。

次に、授業時間数の減少に伴い、授業時間内に何をし、授業時間外にどのような学習を求めるかが、特に初級レベルで課題となりました。授業が毎日ではなくなり、Japanese コース場合は週 3 日、Intensive コースの場合でも週 4 日の授業となりました。どのように学習したことの定着を図るか、効果的に授業をするためにどのような準備を求めるのか、新たなカリキュラムを組むに当たり検討が不十分なままスタートした結果でした。大きなカリキュラム改革と教材刷新とを短期間で実施せざるを得なく、専任講師には多大な負担がかかり、十分に検討する時間が取れなかったことが大きな原因となっています。今後は、このような点にどのように対応するか、自律学習の促進、自己管理などと掲げていますが、具体的に何をどうすれば学生たちに役立つのかを検討し、編み出していかなければならないところです。最新技術の利用の可能性も視野に入れて探っていきたいと思います。

b. 対象学生

今年度の秋が特殊であるのかどうかは、今後の動向を見守る必要がありますが、1 学期のみの短期留学生数が 1 年滞在の留学生数に匹敵し、また大学院生の履修者が目立ったことが特徴でした（参考資料 表 1）。これは、JLP の時間数減少が少なからずもたらした結果と言えるのではないのでしょうか。今後ともさらに多種多様な背景の学生に対して、より効果的な内容ならびに方法を考えていく必要があります。

2) 〈第 1 言語／継承語としての日本語〉プログラム

- a. Special Japanese Core Course 基礎科目は 9 月新入生のうち、〈第 1 言語／継承語としての日本語〉プログラムを履修あるいは免除された学生を含め全員に必修としま

した。人数が多く、学期初めの3回の全体講義の後、3つのセクションに分けました。セクション分けは縦割りとしたため、ある程度の日本語力の差は承知の上で、漢字の読み書きは不問とし、配布物の漢字にはルビを振りました。しかしながら日本語力の弱い学生が期末試験で芳しい成績が取れなかったという結果となりました。日本語力で不利にならないような工夫を考え、より配慮をする必要があると感じています。他方、学期末のコース評価では、いろいろなレベルの学生がいてよかったと記載した学生が8名、同じレベルの学生と一緒にのほうがよかったと記載した学生が8名となっています。初めての試みでしたが、基礎科目を設置したことは、手ごたえがあり、評価できると思われまます。

- b. 従来、日本語の読み書き能力が非常に弱い帰国生は、外国人学生向けの一般日本語コースを履修させていましたが、新カリキュラムではできるだけ〈第1言語／継承語としての日本語〉プログラムに入れました。日本語でのコミュニケーション能力がネイティブに近ければ、〈外国語としての日本語〉プログラムではニーズが合わないためと考えるからです。その結果、Special Japanese 1のコースにはかなりの日本語力の幅があり、部分的に2セクションに分けて対応しました。このように外国人でもなく、帰国生ともいえない狭間にいる学生たちをどのように支援していけばいいのかは、引き続き大きな課題です。

3. テュートリアル（個別指導）のあり方

各コースに人数により1～2コマの個別指導の時間を設けました。Intensive ProgramならびにJapanese ProgramのJ1～6は、時間割の中にあらかじめ1コマ個別指導の時間を組み込んであります。この時間をどのように活用するかは各教員に委ねられていますが、全員を集めて授業、テストや発表などはしないことを原則としました。宿題・テスト・作文などのフィードバックをする、学生の質問に答える、会話の時間とするなどに概ね使われていました。チュートリアルの効果的な利用法、また教師と学生に負担にならないようなあり方を今後議論していく必要があります。

4. 上級・超級の学習者

例年、外国人学生、特に短期留学生の中に日本語超級者がおり、プレースメントテストの結果ではJLP免除と判定されるのですが、本籍校の要件や本人の希望で、日本語を勉強したいと訴える学生がいます。今までは、春学期にしか開講されないAdvanced Japanese 2を勧め、なおかつAdvanced Japanese 1の受講を認めていました。新カリキュラムでは、本科生の語学履修要件はJ7までとなりますので、J8及びJ9は選択科目として上級者向けにあります。J9では、レポート完成を課題としていますので、読み書き能力に焦点が当てられます。今回は、秋学期にJ9が開講していませんでしたので、希望者にはJ8を履修させました。しかし、アジアからの超級者は、読み書きに関しては非常に高い日本語力を持ちながら、聴解ならびに会話能力が弱い学生が多く、クラスの中での対応が困難でした。このような学生のために聞く話すを主とするコースの開発も課題だと考えています。

V. 展望

語学教育というのは1年や2年で終わるものではありませんし、また教室の中だけで上達するものではありません。JLPで日本語学習を終え、巣立っていった学生をICU全体で受け止め、受け入れるシステムを構築していただきたくICUに訴え続けていくつもりです。JLPカリキュラム改革が成果を上げるためには英語開講の科目の増設をはじめ、ICU全体としての後押しが欠かせません。

既にICUとしては現状を鑑み、将来構想として、9月（入学）生、4月（入学）生という垣根を取り払い、語学力に応じてJLPもしくはELA、あるいは両言語を履修できる可能性を取り上げようとしています。また、現状の1年そして秋学期のみの交換留学生に加え、春学期のみという交換留学生の受け入れも始まろうとしています。一方で、受け入れた学生を全学で総合的に学修支援する仕組みの検討も始まっています。

JLPの新カリキュラムは始まったばかりですが、しっかりと振り返り、検証し、しかるべく改善をしていく所存です。ICUの中でのJLPとして、今後発展し、大学全体に貢献しながら、「日本語を学ぶのならICUで」と言わしめるように、JLPの可能性をますます引き出し、より良い日本語教育を提供していきたいと思っています。

参考資料

Old Japanese Programs			New Japanese Program		
	Intensive 1 12 credits 20 periods	Japanese 1 6 credits 10 periods		Intensive A 10 credits 15 periods	J1:Japanese 15 credits 8 periods
		Japanese 2 6 credits 10 periods			J2:Japanese 5 credits 8 periods
	Intensive 2 12 credits 20 periods	Japanese 3 6 credits 10 periods		Intensive B 10 credits 15 periods	J3:Japanese 5 credits 8 periods
		Japanese 4 6 credits 10 periods			J4:Japanese 5 credits 8 periods
	Intensive 3 12 credits 20 periods	Japanese 5 6 credits 10 periods		Intensive C 10 credits 15 periods	J5:Japanese 5 credits 8 periods
		Japanese 6 6 credits 10 periods			J6:Japanese 5 credits 8 periods
Total	36 credits	36 credits	Total	30 credits	30 credits

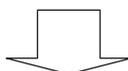
Advanced Japanese Program		Advanced Levels	
Advanced 1 Speaking 2 credits ; 2 periods/wk		J7:Japanese 5 credits ; 6 periods/wk	
Advanced 1 Reading 3 credits ; 3 periods/wk		J8:Japanese <elective> 4 credits ; 4 periods/wk	
Advanced 1 Aural 2 credits ; 2 periods/wk		J9:Japanese <elective> 3 credits ; 3 periods/wk	
Advanced 1 Writing 2 credits ; 2 periods/wk			
Advanced 2 Aural & Oral 2 credits ; 2 periods/wk <elective>			
Advanced 2 Reading & Discussion 2 credits ; 2 periods/wk <elective>			
Advanced 2 Writing & Presentation 2 credits ; 2 periods/wk <elective>			

図 2：新旧対照表 〈外国語としての日本語〉

Old Special Japanese Program

	Special Japanese A	Special Japanese B	Special Japanese C
Fall	A-1: 3 credits; 3 periods	B-1: 2 credits; 2 periods	C-1: 2 credits; 2 periods
Winter	A-2: 3 credits; 3 periods	B-2: 2 credits; 2 periods	C-2: 2 credits; 2 periods
Spring	A-3: 3 credits; 3 periods	B-3: 2 credits; 2 periods	-----
Total credits	9 credits; 9 periods	6 credits; 6 periods	4 credits; 4 periods

low ← student's Japanese proficiency level → high



New Special Japanese Program

Fall	Core Course <compulsory> 1 credit, 1 period						
	SpJ 1 4 credits 6 periods	Kanji 1 1credit 1 period	SpJ 2 3 credits 4 periods	Kanji 2 1credit 1 period	SpJ 3 3 credits 3 periods	Kanji 3 1 credit 1 period	-----
Winter	SpJ 2 3 credits 4 periods	Kanji 2 1credit 1 period	SpJ 3 3 credits 3 periods	Kanji 3 1credit 1 period	-----	-----	-----
Spring	SpJ 3 3 credits 3 periods	Kanji 3 1 credit 1 period	-----	-----	-----	-----	Academic Writing <elective> 3 credits 3 periods
TOTAL	14 credits 17 periods		9 credits 10 periods		5 credits 5 periods		1 credit + <elective>

low ← student's Japanese proficiency level → high

図 3：新旧対照 〈第 1 言語／継承語としての日本語〉

<Japanese as a Foreign Language> Students must complete up to J7: Japanese.

Intensive Japanese Program A, B, C (10 units; 15 periods a week)

	M	Tu	W	Th	F
1					
2				◆	
3		◆		◆	
4	★	x x		★	
5	♡		♡	♡	

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
◆	3/Tu, 2-3/Th
♡	5-6-7 courses

Japanese Program J1-J6 (5 units; 8 periods a week)

	M	Tu	W	Th	F
1					
2				◆	
3		◆		◆	
4	★	x	*	★	*
5	♡	♡	♡	♡	♡

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
◆	3/Tu, 2-3/Th
♡	5-6-7 courses
*	Super 4 Wed,Fri

	M	Tu	W	Th	F
1					
2					
3	★		★		★
4	★	x	*	★	*
5	♡	♡	♡	♡	♡

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
★	3/M,W,F
♡	5-6-7 courses
*	Super 4 Wed,Fri

	M	Tu	W	Th	F
1					
2				◆	
3	★	★	★	★	★
4	★	x	*	★	*
5	♡	♡	♡	♡	♡

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
★	3/M,W,F
♡	5-6-7 courses
*	Super 4 Wed,Fri
◆	3/Tu, 2-3/Th

<Japanese as a First/Heritage Language>

Students must complete up to Special Japanese 3.

	M	Tu	W	Th	F
1		core			
2					
3	★		★		★
4	★	x		★	
5	♡	Kanji	♡	♡	

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
★	3/M,W,F
♡	5-6-7 courses

	M	Tu	W	Th	F
1		core			
2				◆	
3	★	★	★	★	★
4	★	x		★	
5	♡	Kanji	♡	♡	

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
★	3/M,W,F
♡	5-6-7 courses
◆	3/Tu, 2-3/Th

	M	Tu	W	Th	F
1		core			
2				◆	
3	★	★	★	★	★
4	★	x		★	
5	♡	Kanji	♡	♡	

	JLP classes
★	Super 4 Mon,Th
★	3/M,W,F
♡	5-6-7 courses
◆	3/Tu, 2-3/Th

図 4 : 新時間割

表 1 2013 年度秋学期の学生分布

	本科生		短期留学生 OYR		研究生	大学院 生	在校生	計
	4 年	転入	1 年	秋学期				
Int A	0	0	3	2	1	0	0	6
Int B	1	0	7	1	1	0	0	10
Int C	0	0	5	1	0	1	1	8
J1	0	0	5	8	1	5	0	19
J2	1	0	8	4	0	3	0	16
J3	1	0	4	10	0	1	1	17
J4	1	1	10	6	0	0	0	18
J5	0	0	6	9	0	1	1	17
J6	0	0	5	5	0	1	0	11
J7	0	0	0	3	0	2	8	13
J8	0	0	5	3	0	1	2	11
JLP exempt	0	1	1	0	—	—	—	2
SpJ 1	14	1	0	1	0	0	0	16
SpJ 2	9	3	0	0	0	0	0	12
SpJ 3	6	0	0	0	0	0	1	7
SpJ exempt	6	1	—	—	—	—	—	7
小計	39	7	59	53	3	15	14	181

さらなる内訳

Sp K 1	14	2	2	1	0	0	1	20
Sp K 2	11	2	0	0	0	0	0	13
Sp K 3	9	0	0	0	0	0	0	9
SpCore	39	4	0	1	0	0	0	44

